Re×Birth

さきたま古墳群と武蔵用水路を利用した地の聖霊再生

Re×Birth

Rebirth of Genius loci at Sakitama tumulus and Musashi canal

提 出 者　01221005　黒須 卓也 TAKUYA, Kurosu
指導教員　八代 克彦　教授

ABSTRACT
Gyoda City, northern area of Saitama prefecture, is well known as a terribly hot place in summer. The origin of the name of Saitama came from Sakitama-tumulus which is located in the southwestern suburbs of Gyoda. The purpose of this project, entitled Re×Birth, is the resuscitation of genius loci, the spirit of a place. In this project I propose a new vision of the future of Gyoda City focusing genius loci at an area of Sakitama tumulus and Musashi canal.

概　要

1. はじめに

埼玉県行田市南郊は埼玉県名発祥の地であり、古からの文明が残るさきたま古墳群が存在する。古墳群の西隣を流れる武蔵用水路は利根川の水を荒川へと導き、首都圏域に渡って都民の生活を潤している。本計画では、[Fig.1]に示すさきたま古墳公園と武蔵用水路一帯を敷地とし、日本でも有数の酷暑地帯として知られる当該地域のゲニウス・ロキ、すなわち地の聖霊を再生することを目的とする。借景を用いて個々の古墳を引き立たせ、訪れる人を配慮した新たな環境装置として墓・水・田を融合した設計を行う。

2. 広大な敷地全体の構成

総面積約 120ha に及ぶさきたま古墳公園全体をひとつにまとめるために[Fig.2]のデザインスキームを作成した。キーワード〈ゲニウス・ロキ〉を手掛かりに当該敷地の歴史風土を形成する諸要素を再構築し、借景手法や地形の陰影、水の蒸散作用を利用することで景観形成、採涼・採暖、防風・冷却などの機能を有する環境装置としての施設群を提案し、これらを 3 本の軸線を用いて配置構成した。これらの軸線により公園全体に統一感をもたらすとともに古墳群と新たな提案施設との間に新たなシナジーを生み出すことを目論んだ。

3. 軸線による全体構成

様々な景観を生み、借景を導入する準備ともなる 3 軸を示す[Fig.3]。さきたま古墳群の前方後円墳が向く富士山への軸が I 軸であり、距離的関係を視覚で結んでいる。II 軸、江田船山古墳への軸線は稲荷山古墳より発掘された「金錯銘鉄剣」と同様の文字が刻まれた「銀錯銘太刀」が発掘されたことから大和王権の支配が及んだ域を軸で結んで歴史的背景を表している。II 軸は野外ステージを構成する軸として使用した。III 軸は敷地の南へと延びる田んぼの軸線を使用した。既存の地形に合わせた軸線は新たな設計物を馴染ませる。主に I 軸と III 軸を使用して園路と施設の配置に反映させている。多くの軸線は潜在的になりその上に各施設を配置した。[1]

4. 借景による地の聖霊再生

当該敷地には古墳の他にも歴史的建造物が点在しており、その土地ならではの雰囲気や記憶の拠り所となっている。これを浮かび上げ、再生するために日本庭園に使われる借景手法を援用し、特に以下の 2 種類を使用した。[2][3]

① 借景構造で公園内の古墳と古墳・見切りとなる装置を重ねる。
② 近景（敷地・庭園）遠景（山・建物）を重ねることで結び遠くの対象を引き立たせる。

遠・近様々な場所を結び、ひとつの空間として見なし地の聖霊を引き立たせる。新たな葬送空間を提案した斎場[Fig.4]は死者との別れの場を再生の場にするため、古墳を借景する。

5. Re× Birth のシークエンス[Fig.5]

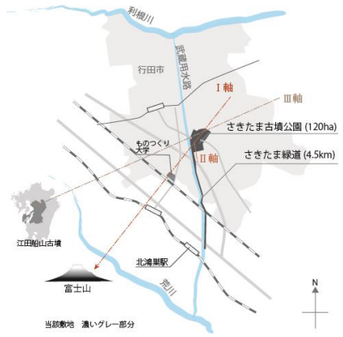
古に建造されてから約 1500 年の歳月を超え、今も残るさきたま古墳群をはじめとした物は元来の姿を留めていない。古に生みだされた様々なデザインは年月を経て破損・風化し、本来の用途・目的は忘れられ大地に散りばめられる。元の形に戻す“復元”ではなく、新たな用　途・目的のためにデザインする“再生”を目指す、それが Re× Birth である。すべての人に様々な感覚を体感できる新たな公園は古墳が現代に即し、古墳の存在意義を大きく強めるものである。

6. おわりに

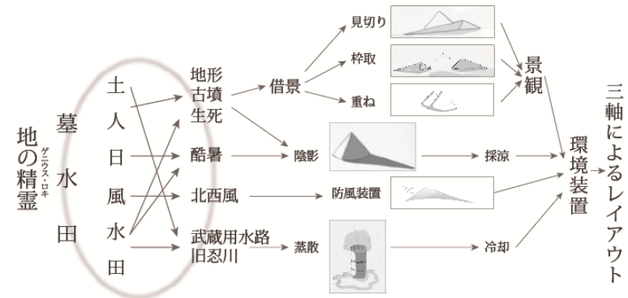
本計画では行田市の地の聖霊を再生するためにより、この地でしかない景観・記憶・場所を計画した。様々な魅力を融合した環境装置としての新たな場所の可能性を提案するとともに借景による敷地の領域を超えた空間にすることで訪れた人々に再び生きる力を与えたい。

参考資料

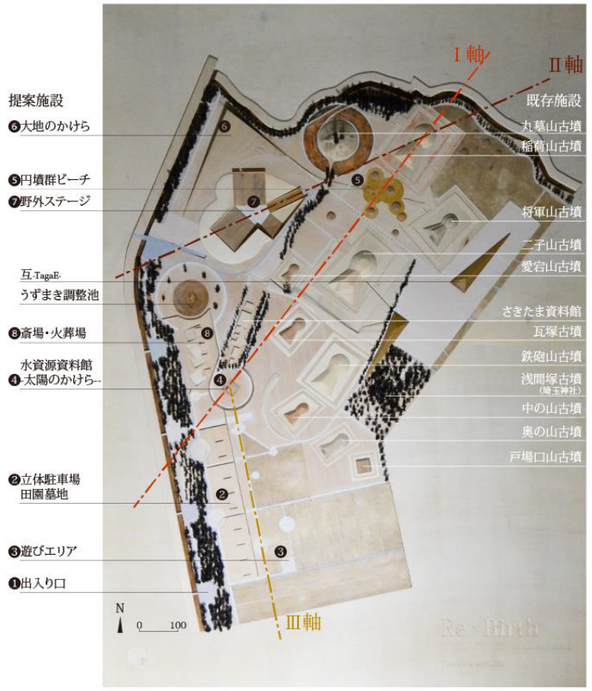
[1] 黒須卓也　八代克彦「イサムノグチのモエレ沼公園における幾何学的配置構成とビスタに関する考察」日本建築学会大会学術公演梗概集(北海道)2013 年 8 月
[2] 進士五十八「借景に関する研究 景観構造ならびに借景 思想にみる自然への態度の日本的特質について」造園雑誌 50(2)(1988)
[3] 樋口忠彦『景観の構造　ランドスケープとしての日本空間』技報堂(1975)



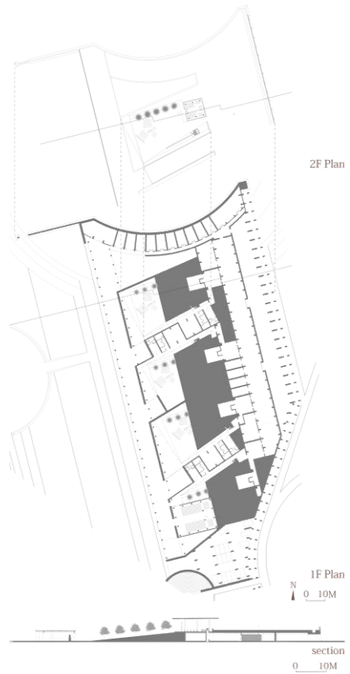
[Fig.1]The analysis map of Gyoda



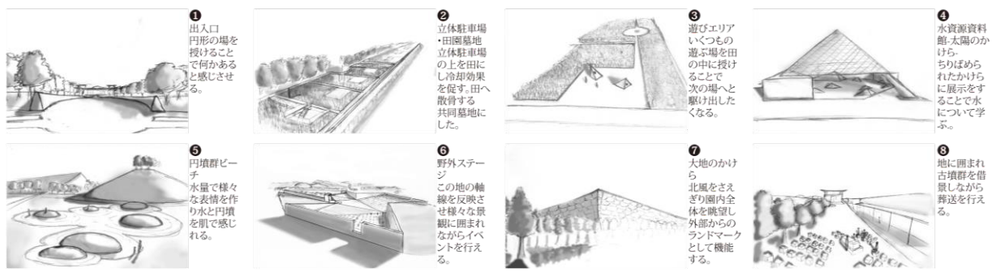
[Fig.2]Design scheme



[Fig.3]Site plan model



[Fig.4] Funeral hall and crematory❽



[Fig.5]Sequence drawings